

Business Report



2020年4月1日 → 2021年3月31日

第61期 株主通信

株式会社ヤマザキ

株主の皆様へ

この度、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、医療従事者や感染拡大防止にご尽力されている皆様には深く感謝申し上げます。

当社は、おかげさまで設立60周年を迎えることができました。

これもひとえに株主の皆様をはじめ、当社とともに歩んでいただいていた皆様のおかげであると心より厚く御礼申し上げます。

当社グループを取り巻く輸送機器業界は、昨今「CASE」というキーワードに代表される大きな変革期の中にありますが、たとえ今後、エンジンがモーターに切り替わったとしても、生産において、加工・組立・品質保証・物流は必要不可欠と考えており、人口減少・人手不足が進む中、自動化・省人化の要請は大きく、当社グループに対するニーズもますます高まっていくと考えております。

当社グループは、この変革期をお客様に貢献できる絶好のチャンスととらえ、一層の生産技術力のイノベーションに取り組んでまいります。また、お客様の生産活動に寄り添い、単なるハードの提供ではなく、お客様の生産に喜びをもたらすプレミアムな技術を提供することで「世界中で必要とされる会社」を目指しております。今後は、食品分野や機械のアフターマーケット事業など周辺分野への参入により、さらなる業容拡大を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長

山崎 好和

事業報告

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、国内外の景気は悪化しております。ワクチン接種が開始され、防止策を講じつつ経済活動を再開しているものの、依然として先行きは不透明な状況にあります。

このような状況のもと、当社グループの工作機械事業におきましては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、客先の設備投資計画の見直しや遅延により販売が減少し、輸送用機器事業におきましては、下期においては持ち直しの動きがみられたものの、国内及びベトナムの子会社において販売が減少し、当連結会計年度における売上高は23億1千7百万円（前年同期比36.8%減）となりました。

利益面につきましては、売上高の減少による固定費負担の増加及び工作機械事業における物件へのコストダウン要請への対応が響き、営業損失は3億7千5百万円（前年同期は営業利益1億2千9百万円）、経常損失は3億6千9百万円（前年同期は経常利益1億2千6百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失は3億7千8百万円（前年同期は親会社株主に帰属する当期純利益8千5百万円）となりました。

業績ハイライト

最新のIR情報・IRニュースは当社ホームページをご覧ください。

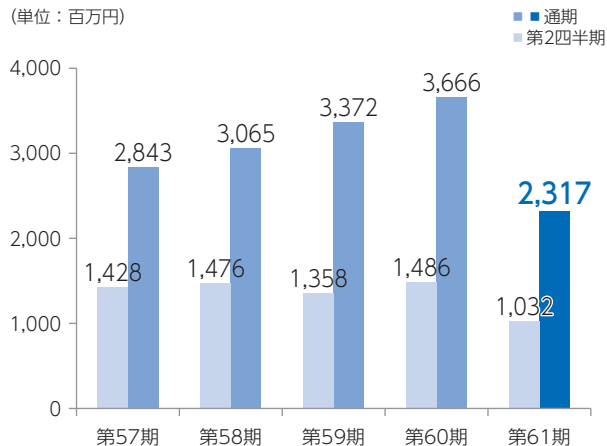
株式会社ヤマザキ IR



売上高

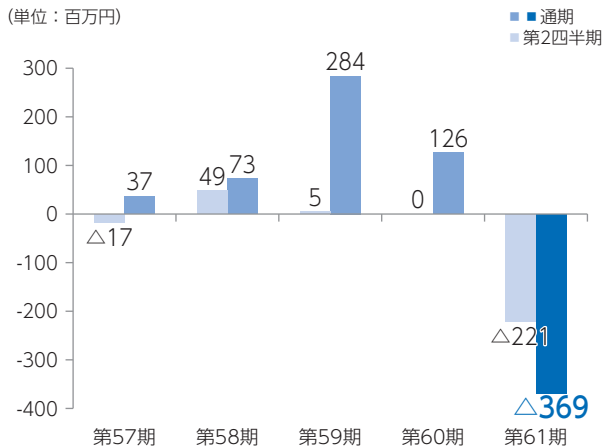
2,317百万円

(単位：百万円)



経常利益又は経常損失(△) △369百万円

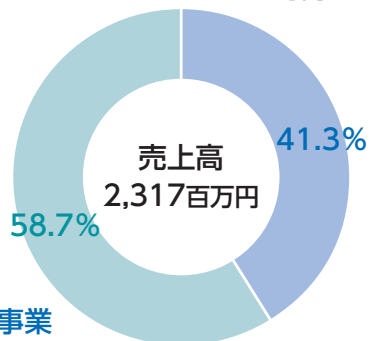
(単位：百万円)



売上高構成比

輸送用機器事業

957百万円



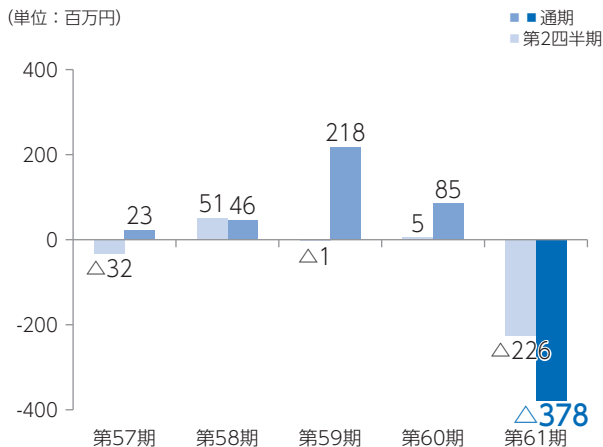
工作機械事業

1,360百万円

(注) 上記売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を除いております。

親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△) △378百万円

(単位：百万円)



株式会社ヤマザキは
2020年9月1日をもちまして、設立60周年を迎えました。
当社が培ってきた60年間の技術開発のあゆみをご紹介します。

創業

1946年3月

(昭和21年)
山崎好夫が浜松市寺島町に
山崎鉄工所として創業
楽器部品及び専用機・治工具
の製造を開始

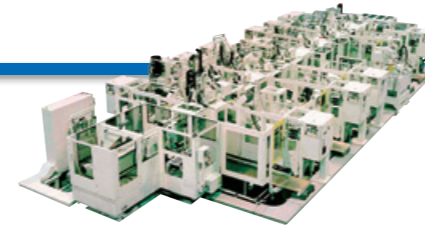


1972年10月

(昭和47年)
商号を
株式会社ヤマザキに変更

1990年3月

(平成2年)
設立30周年
資本金9億5,840万円に
増資し株式の店頭登録を行う
(現JASDAQ, 証券コード番号6147)



クランクケース加工マシニング



1992年9月

(平成4年)
都田テクノポリス内に
テクニカルセンター完成

2003年5月

(平成15年)
浜名湖浄化技術発掘事業に
参加

2004年9月

(平成16年)
ベトナムに連結子会社
YAMAZAKI TECHNICAL
VIETNAM CO.,LTD.を設立

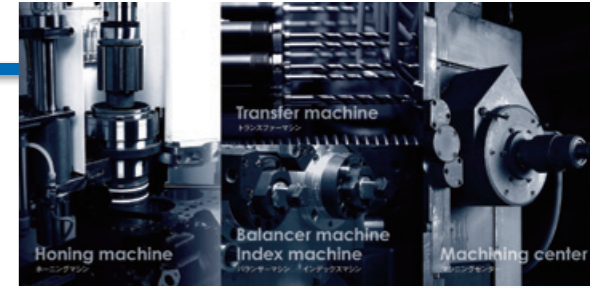


2020年7月

(令和2年)
(株) ラックランド、
同子会社 (株) ハイブリッドラボとの資本業務提携
食品分野で業容拡大を目指す

2020年10月

(令和2年)
ホーコス (株) との合併会社
HYテクノロジーズ (株) の設立
機械のアフターマーケットで業容拡大を目指す



1946年～

1970年～

1990年～

2000年～

2020年～

1954年4月

(昭和29年)
浜松市浅田町に移転し
オートバイ部品の受注を開始



1960年9月

(昭和35年)
法人組織に改組し
株式会社山崎鉄工所を設立

1964年4月

(昭和39年)
浜松市有玉北町 (現在地) に
移転し事業拡大を図る

1968年4月

(昭和43年)
ドリルユニットをはじめとする
省力化機器の製造販売を開始

1987年2月

(昭和62年)
第13回発明大賞功労賞を受賞



デフケースマシニング

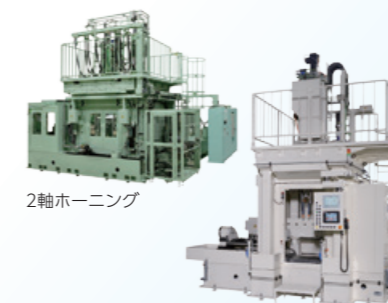
1991年11月

(平成3年)
本社新社屋完成



2000年2月

(平成12年)
ホーニング部門を新設

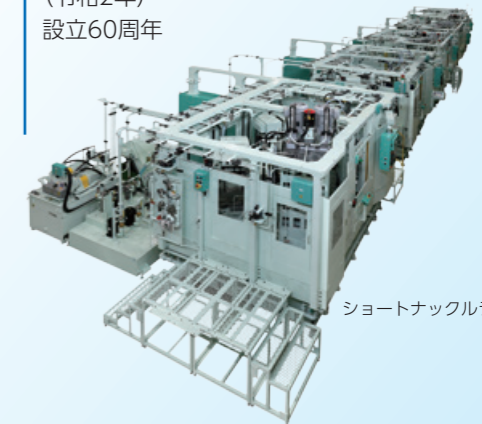


2軸ホーニング

1軸ホーニング

2020年9月

(令和2年)
設立60周年



ショートナックルライン

